

● 「下街支店」の新築オープンと「地域プラットフォーム」としての店舗創りの推進について

各 位

令和2年10月

高知信用金庫（理事長・山崎久留美）は、2020年度から5カ年の中期経営計画「地域プラットフォーム2020」のメインテーマの一つに「地域貢献」を掲げ、地域社会や事業の発展を支えるとともに、人々の幸せな暮らしに寄り添う取り組みを進める所存です。その一環として、最前線となる各地域の支店を地域の人々が集う「プラットフォーム」として、リニューアルしていきます。「地域プラットフォーム」とは、これまで各地区の取引拠点としての存在だった支店の役割を見直し、支店のサービス範囲を「エリア」で捉え、集約化も含めて各支店を充実、強化。県内全域を高知信金の地域サービス網でカバーすることで、きめ細やかな地域貢献を進めていく考え方です。

その取り組みの第1号店となるのが今回、新築移転でオープンする「下街支店」（高知市知寄町1丁目6-3）となります。新店舗は、「幸せ体験を皆様に」というコンセプトで、アートな感動体験を演出する「木のあるロビー」や、お一人でもご家族でもリラックスしてご相談頂ける「コンシェル窓口」など居心地のいい公園のような居心地の良い空間を目指しました。

また、防災対策にも力を入れています。現地は南海トラフ地震の際には浸水地域に当たるため、四国初となる3mの浸水に耐え得る防水シャッターを導入しています。さらに、2階の床高を6mで設計し、通用口を2階に設置。最大浸水時にも1階営業フロアへの水の浸入を防ぎ、災害時に早期復旧ができる仕様にしています。

今後も、店舗新築や改修は今回のコンセプトを踏襲し、「地域プラットフォーム」としての拠点創りを進め、地域発展に貢献したいと考えています。

記

1. 下街支店のオープン日時

令和2年10月19日(月)午前9時

2. 店舗の特徴

【木のあるロビー】

絵画と木の空間アートが融合した心に残るロビーとオフィスの環境をデザインしています。人々が集い、会話が弾む居心地の良い空間が良質なサービスを創造します。

【全席がコンシェルデスク】

6つのパーソナルブース、2つのファミリーブースがすべてローカウンターとなっており、窓口カウンターを廃止しました。親切な接客サービスと窓口システムで快適なお取引を提供します。

【花鳥風月のサイネージ】

高知の美しい自然をこよなく愛する写真家、高橋宣之さんが撮りおろした環境映像ムービー「花鳥風月」をロビーで放映、待ち時間などに美しく奥深いネーチャーワールドが堪能できます。

【四国初の防水シャッター】

南海トラフ地震を想定して耐震性を高め、3mの浸水に耐える防水シャッターを四国で初めて導入しました。また、2階の床高を6mとし、2階に通用口を設置、自家発電装置も配備しています。これにより、1階営業フロアへの水の浸入を防ぎ、災害時に早期復旧ができる体性を整えています。

以上